

## 赤雪山～仙人ヶ岳(読図)山行報告

【山行日】2017年3月5(日) 快晴

【集 合】岩舟支所P AM 6:00

【費 用】マイカー2台 : 600円

【メンバー】CL:鈴木、石川、伊藤、岩淵、大久保、大西、香川、島田、津佐、鶴見、藤原、松館

【コースタイム】岩舟支所 P6:00=ふれあい広場 P7:00/7:30～赤雪山 9:20～

585m P9:50～県界尾根 10:50～仙人ヶ岳

11:40/12:10～熊の分岐 12:50～犬掃し 13:50

～尾根下降点 14:45～送電塔 15:20～ふれあい広場 P15:55/16:05=岩舟支所 P17:00

2/21(火)の「読図教室」で作成したナビゲーションシステムを、実際に歩いて確認する実技山行を赤雪山から仙人ヶ岳コースで行った。松田ダム下の「ふれあい広場」駐車場に着き、トイレを済ませ出発の準備をする。ふれあい広場には、オートキャンプ場が併設されているが、この時季でも5組のグループがキャンプを楽しんでいた。



ストレッチを済ませた後、コースの説明やチェックポイントでは方向確認することなど指示し、2班に分かれて出発する。1班が出発し、10分後に2班が出発した。松田ダムサイトまで登り、ダムに沿って歩き赤雪沢駐車場へ向かうと携帯にTELがあった。

1班から赤雪沢コースは台風による倒木で危険なため通行禁止になっているとの連絡だった。

た。

自己責任で行けないことも無かったが、会の公式講習会なので、コースを尾根コースに変更して登ることにする。尾根コースの登山口で地図を広げ、行き先の方向を確認して進む。さらに尾根上に出た場所でも皆で確認し赤雪山をめざし登って行く。

赤雪山頂に着くと1班が休んでいたが、2班と入れ替わりに出発して行く。東屋で休憩しキーウィフルーツを食べ、水分を補給する。山頂には大きな道標が立っている



が、道標に頼らず行き先の方向を確認して歩き出す。山頂から真北に進み、次のピークで進路が北西に変わるので、方向を確認し進む。ここからは足利市と佐野市の境界の尾根を歩くので、境界見出

し標識を確認しながら進む。地図上に載っていないピークがあるため、次の583mピークが分かりづ



らかったが、小さな札が掛かっている特定できた。小休止しフルーツマトをいただき、汗をかいたので水分も補給する。アップダウンがきつく、皆さんお疲れの様子で、登ることに集中し進路チェックの作業がおろそかになって来た。ようやく県界尾根に出て安堵するが、ここから仙人ヶ岳まではまだまだ遠い。急なアップダウンを繰り返し、ロープを頼りにトラバースする箇所もあり難儀した。仙人ヶ岳への分岐に出て右に進み、緩やかに下って登ると仙人ヶ岳山頂に着いた。

山頂で1班と待ち合わせたが、1班は昼食を食べながら待っていた。2班も昼食を食べることとし、各自持参した昼食をいただく。食べ終わったらお互いの情報を交換し、記念写真を撮ったら1班は出発する。2班はさらに10分休憩し、後を追って出発した。ここからは今までと違い、人気のハイキングコースを歩くので登って来る人が多い。

熊の分岐まで下り小休止すると、T見さんが花粉症で鼻をかみすぎ鼻血が出てしまった。

鼻血が止まるまで待って出発したが、進行方向は南東へ尾根上を進むので方向確認は省略する。犬帰しの鎖場に着き、巻道と鎖場のどちらに行くか聞くと「鎖場」との返事。鎖場の降り口に行くと、1班の丁度最後の人降りている所だった。鎖場の降り方や注意点を説明しながら下り、途中で皆さんの下降をフォローする。岩に慣れない人はスタンスが見つからず、



時間が掛かったが無事に全員降りることが出来た。鎖場から登った岩の上で小休止し、ご褒美の味噌饅頭をいただき、水分も補給する。511mピークは、下降点を特定するためにも見落とさないよう注意深く確認する。511mピークを過ぎたあたりで1班からTELがあり、下降点が見つからないと



の事である。少し行きすぎたようなので、2班が間もなく着くので戻るよう指示し下降点に着く。

1班が戻って来て、ここからは一緒に下ることにする。ここからは、痩せ尾根の道なき道を下るので、ルートファインディングが必要なコースだ。落ち葉に足を取られ転ぶ人や、ザレ石に足を取られ尻もちをつく人がいたが、何とか送電塔下まで無事に下れた。送電塔下で最後の休憩を取り、残った菓子やチョコをいただき「ふれあい広場」に向かう。落ち葉で滑りやすい斜面をジグザグ

に下り、涸れ沢を朽ちた橋で渡ると目標にした神社の鳥居に出ることが出来た。

「ふれあい広場」駐車場まで道路を歩き、トイレを済ませてから帰路につく。参加者が多く、進路を確認しながら歩くので時間が掛かり、予定より2時間遅れて岩舟支所に帰着した。  
新人のお二人から、「今回は読図や岩場、鎖場、サバイバルコース等様々な体験ができ、良い勉強になりました。」と感謝の言葉を頂き、我輩の苦勞が報われ、また読図教室を計画しようと思った。